



(株)AsMamaと生駒市の協定による 子育てシェアの狙いと現状



こむらさき まさし
生駒市長 小紫 雅史



I 生駒市について

豊かな自然や歴史、伝統産業（茶せん）と
最先端技術を備えた利便性の高い**住宅都市**



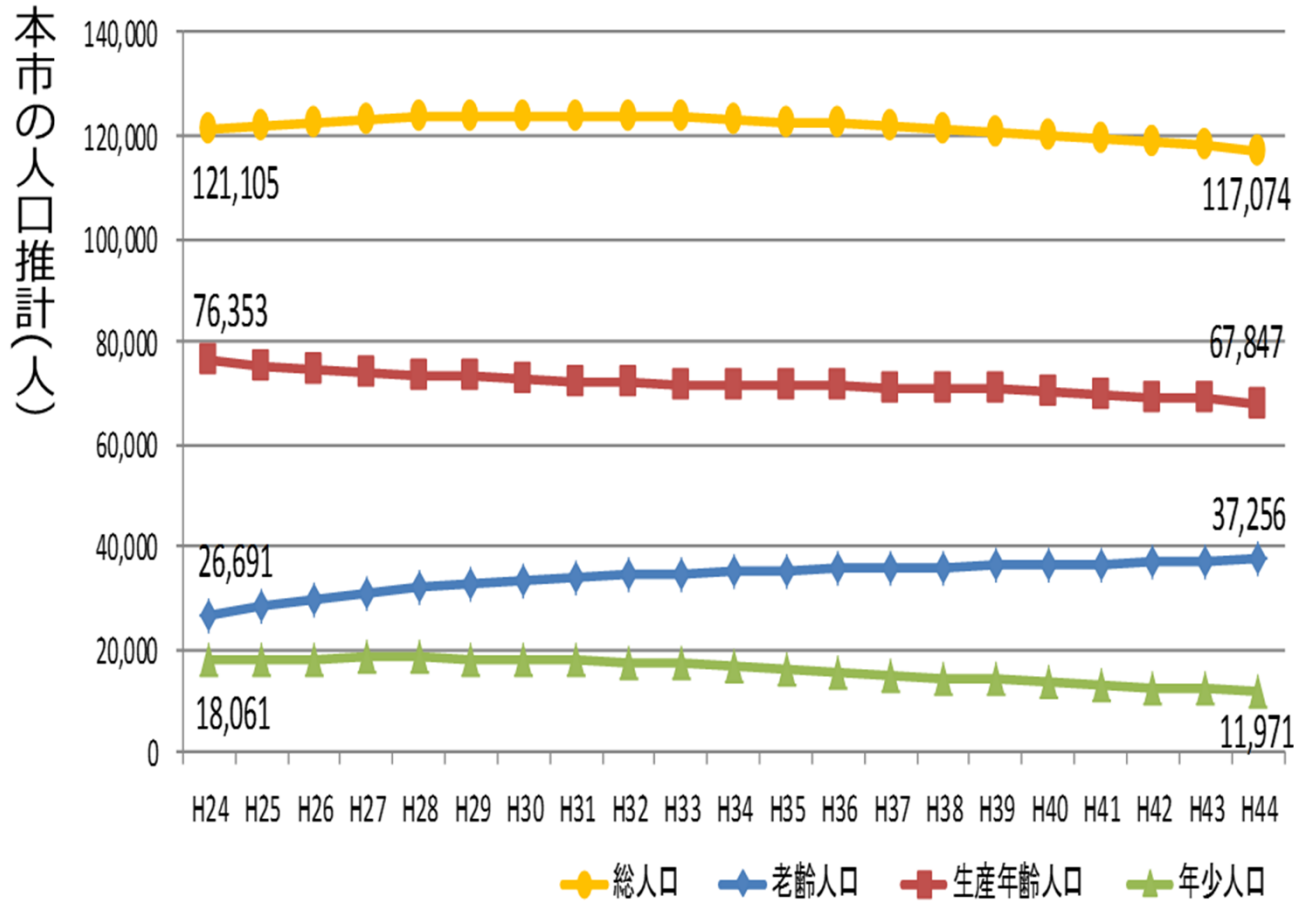
- ▶ 住み良さランキング **奈良県1位 関西10位**
- ▶ 主婦が幸せに暮らせる街ランキング **関西2位**
- ▶ 安全・安心な街ランキング **全国1位**
- ▶ 住宅都市初の「**環境モデル都市**」





Ⅱ 生駒市の課題





① **人口減少**

≡子育て世帯の減少

② **高齢化 (26.18%)**

スピードは、
全国トップ5%

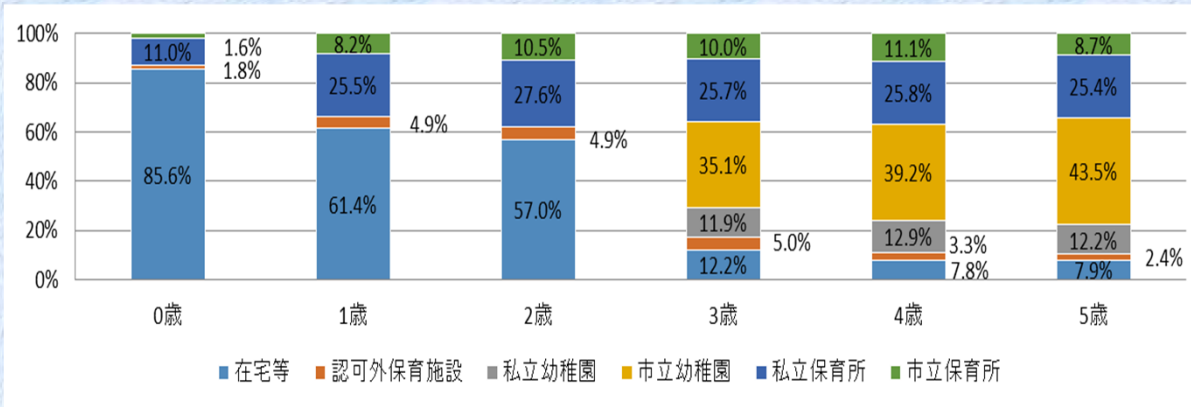
③ **空き家増加**

(6.2%)

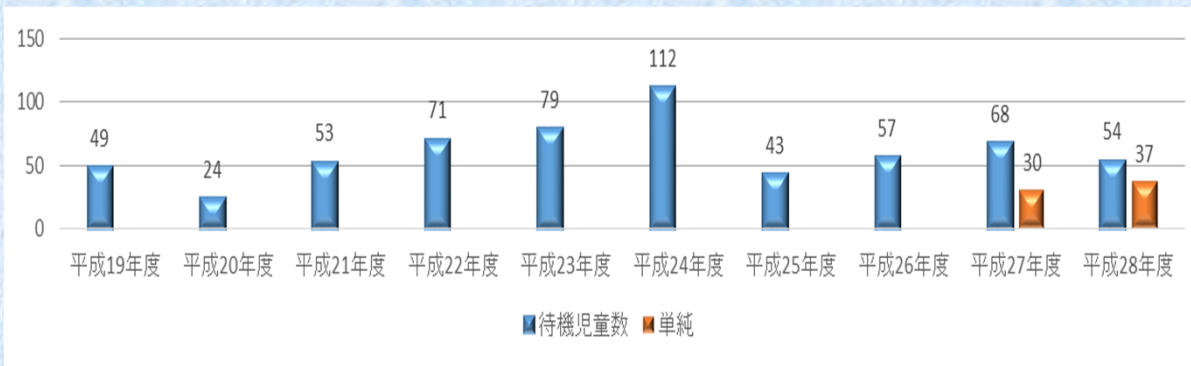




④ 在宅子育ての孤立化・待機児童



幼稚園は全入だが、専業主婦が多く、2歳児までは在宅子育て多い



保育園整備は進んでいるが、待機児童は解消せず





Ⅲ (株)AsMamaと全国初の協定 (2016.1.14)



くねらい (AsMamaとの連携による生駒市の課題への対応) >

① 人口減少・少子化

⇒ 一歩先行く子育て施策とPRにより大阪の子育て世帯の移住

② 高齢者の街づくりへの活躍

AsMamaサポーターなどによる高齢者のまちづくりへの参画

⇒ 「高齢化」をネガティブワードにしない!

③ 高齢者の多い地域への子育て世帯の移住促進

⇒ 地域コミュニティを深め、ニュータウンの再生・空き家解消へ

④ 「孤」育ての緩和、働きたいママの選択肢の増加

⇒ 「保育園入所」のみならず、「幼稚園+子育てシェア」も選択可能

⇒ 街づくりへの貢献の場としてのAsMama



<現状>

一般ユーザー数79名・ママサポ数2名

(目標：一般ユーザー数1000名・ママサポ数30名)

<課題>

- AsMamaの関西圏における認知度
- ITスキルが必須であり、高齢者の活動に一定の制約
- 生駒市の子育て関連団体との連携が不十分
- LINEつながりによる現状の助け合い以上の付加価値
- 登録後、実際のサービス利用までのつなぎ込みが不十分



<今後の取組み>

○甲田社長による子育てシェアの説明会開催 (12月19日)

クリスマスイベントを通じた学生のAsMama事業への参加促進

○就園前の世帯へのアプローチ

子育てサークル・集団検診（1歳6ヶ月）・電子母子手帳での周知

○自治組織とAsMamaの連携促進 (ITとアナログのコラボ)

自治会の活動としてのAsMama

○地域デビューガイダンスへの出展

高齢者の「地域デビュー」を応援するイベントで、AsMamaを紹介



「シェアリングエコノミー」
= 市民が市民を支えあう仕組み

(+ちょっとしたお金?)

= 「協創 (≠協働)」

「みんなで創る、日本一楽しく住みやすい街、生駒」

生駒市は、「協創」をキーワードに
住宅都市のモデルケースを創り、
関西から発信します！

